

県立高等学校教育改革第3次実施計画(案)に対する意見募集結果

	No.	提出された意見		意見に対する県教育委員会の考え方
実施計画全般	1	本実施計画の目的は、県の財政難に対応した経費削減なのではないか。(外4件)	その他	本実施計画は、産業構造や就業構造の変化に伴う生徒の進路意識の多様化や中学校卒業予定者数の減少等、高校教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、県立高校における活力ある教育活動を維持し、様々な課題に柔軟かつ遅しく対応し、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを推進するために策定したところです。
	2	第2次実施計画の検証を行い、本実施計画に対する民意を広く聴取する期間を1年ほど設け、その後に第3次実施計画を策定してもよいのではないか。	その他	第2次実施計画に引き続き、継続して教育環境の改善・充実を図る必要があることから本実施計画を策定したところです。 まず、本実施計画の策定に当たり、県内有識者により、平成21年度以降における今後の県立高校の在り方について審議していただいた「高等学校グランドデザイン会議」では、会議を全て公開で実施するとともに、審議状況を「中間まとめ」として公表する等、県民の皆様からご意見を伺う機会を設けてきました。 次いで、「今後の県立高等学校に在り方について」の答申をいただいた後は、県内6地区において、答申の内容に関する説明会を開催する等、地域の皆様から直接ご意見を伺う機会を設けてきました。 更に、実施計画について具体的な検討を行うために庁内に設置した高校教育改革推進庁内検討委員会においても、本実施計画の検討過程では、平成20年1月31日に本実施計画(素案)として公表し、ご意見を伺う機会を設けた上で、平成20年3月31日に実施計画(案)として取りまとめて公表したところです。 この実施計画(案)についても、平成20年4月1日から5月20日まで、50日間にわたりパブリック・コメントを実施するとともに、広く県民の皆様や学校関係者の方々からご理解をいただくよう、県内6地区で説明会を開催しました。また、個別の学校関係者からの要請に基づいた説明会及び学校存続に係る要望書や署名等により、数多くのご意見をいただきました。これらのご意見や要望書、署名等については、関係者の方々の思いの表れであると受け止めつつ、その内容について十分検討を行い、必要がある場合には修正を加えた上で本実施計画として公表したところです。
	3	毎年度の募集学級数については、中学校卒業予定者数に対応して柔軟に設定するべきである。	記述済み	「具体的な実施計画【前期】」の「1 第3次実施計画【前期】の期間」に示したように、具体的な実施計画については、中学校卒業予定者数の増減や地域の実情等を考慮した上で、平成21年度から5年間の学校規模・配置等について作成しています。 また、具体的な実施計画については、生徒の志願・入学状況や高校教育を取り巻く環境の変化により、地区ごとの学校規模・配置等、計画内容の見直しを随時行います。
	4	退職した教員を再雇用することで人件費を抑えられるのではないか。	その他	現在も、退職された教員の方の再任用等は実施しているところです。
望ましい学校規模	5	人を育てるためには、ある程度の学校規模が必要である。	記述済み	「3 県立高等学校の適正な学校規模・配置」に示したように、県立高校においては、生徒の多様な進路志望に対応する教科・科目の開設や多彩な学校行事、様々な部活動を展開するためには一定規模以上の学校規模が必要であると考えています。 また、本県は、青森市、弘前市、八戸市の人口規模が他の市町村と比べて大きく、また、近隣の市町村から三市の普通高校へ進学を希望する中学生が多いという特徴があるため、学校規模については三市にある普通高校とそのほかの市町村にある普通高校において、それぞれの視点で考える必要があります。また、普通高校以外の高校については、これまでの志願・入学状況などに対応して学校規模が多様になっています。 これらのことを踏まえ、三市の普通高校については1学年6学級以上、そのほかの全ての高校は1学年4学級以上を望ましい学校規模としているところです。
	6	市部と郡部で望ましい学校規模が異なっているのはなぜか。		

望ましい学校規模	7	切磋琢磨するためにはある程度の学校規模が必要であるとのことだが、自分のことをよく理解してくれる友人がいてこそ切磋琢磨できるのである。	その他	一定規模以上の学校規模の中においては、ご指摘の良き友人と出会う可能性を広げることができるという意味も含め、生徒の多様な進路志望へ対応する教科・科目の開設や多彩な学校行事、様々な部活動等の展開が可能となるものと考え、三市の普通高校については1学年6学級以上、そのほかの全ての高校は1学年4学級以上を望ましい学校規模としているところです。
	8	望ましい学校規模を2通り示すということは、学校による条件等の違いを認めているということである。それならば、画一的に1学年6学級を維持する必要はない。	記述済み	「3 県立高等学校の適正な学校規模・配置」の「(2) 学校配置の方向性」に示したように、他の学校へ通学することが困難である場合などは、地区の事情による柔軟な学校配置等にも配慮した上で、具体的な実施計画を策定したところです。
	9	専門高校は専門科目の必修が多く、普通科目の選択幅を広げることではできないので、学校規模が小さくても運営が可能なのではないか。	その他	専門高校においても、多様な進路志望に対応した教科・科目の開設や、多彩な学校行事、部活動等の展開が必要であることから、三市以外の普通高校と同様に4学級以上を望ましい学校規模としているところです。
	10	1学年5学級と1学年6学級では、部活動の選択幅にどのような違いがあるのか。	その他	1学年6学級から1学年5学級となることで教員配置が減ることから、開設できる教科・科目数が少なくなることに加え、部活動も設置数が少なくなる傾向にあります。
	11	1学年1学級の校舎(分校)では、部活動もできないのではないかと。それでは子ども達がかわいそうだ。	その他	第2次実施計画では、1学年4～8学級を望ましい学校規模としながらも、地元生徒の志願・入学状況や通学状況等の地区の事情について配慮し、1学年3学級以下の学校も設けてきたところです。部活動については、その学校の実情に合わせて設置することから、教員配置や生徒数により設置数が異なっています。
募集停止・統合・学級減等	12	少子化に伴い、高校再編・学級削減をしなくてはいけないことは理解できる。(外8件)	記述済み	「3 県立高等学校の適正な学校規模・配置」に示したように、今後も中学校卒業予定者数の更なる減少が見込まれることから、高校における活力ある教育活動を維持するためには一定規模以上の学校であることが望ましいというこれまでの方向性を踏襲しつつ、地域の様々な実情等を考慮した上で、県立高等学校の統合を含めた適正な学校規模・配置を進めていく必要があるものと考え、本実施計画を策定したところです。
	13	募集停止するのではなく、現在ある教育資源(校舎等)を活用して高校教育を充実し、将来を担う青森県の人材を育成する必要がある。	反映困難	本実施計画においては、学校配置の状況や地域において高校教育を受ける機会の確保に配慮しながら、中学校卒業予定者数の減少や、これまでの志願・入学状況を勘案した上で、望ましい学校規模・配置となるよう、計画的に統合等を行うこととしたところです。
	14	募集停止となる条件等を、あらかじめ示しておく必要がある。	反映困難	本実施計画においては、具体的に望ましい学校規模を示していますが、他の学校へ通学することが困難である場合などは、地区の事情による柔軟な学校配置等にも配慮することとしているなど、地域の様々な実情を考慮した上で適正な学校規模・配置を進めることとしていることから、募集停止に係る基準・条件等を一律に定めることは難しいものと考えます。
	15	募集停止となった高校の生徒は、その年度から統合先の高校へ通わなくてはならないと誤解している人が多く、表現が分かりにくい。	文書修正等	募集停止となる学校に入学した生徒は、入学した学校で学び卒業することとしていますので、その旨が分かりやすいように記述しました。
	16	募集停止となった高校は下級生がいなくなる学年が生じることから、部活動等の学校活動に影響がある。	実施段階検討	募集停止となった高校については、生徒の進路指導を達成するため、きめ細かな教育活動を展開するとともに、文化祭や体育祭等の学校行事、生徒会活動、部活動等についてより円滑に実施できるよう、統合準備委員会(仮称)等において検討することとしています。

募集停止・統合・学級減等	17	<p>県立高校の募集停止については反対である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く薄く募集定員を減ずる等の手法によると、募集停止を行わなくてもよい。(外3件) ・現在生まれている子どもが高校へ入学するまでは、今のまま存続するべきである。 ・募集停止はみんなが納得できる段階で行うべきである。 ・子ども達にとって、校風・偏差値・通学の便等について、幅広い選択肢があることが大事であり、募集停止は人材育成という長い目で見ると損である。 	反映困難	<p>本県においては、第2次実施計画を策定するまで、生徒数の減少に対し、既存の学校を可能な限り存続させることを前提に、大規模校を中心に学級減を進め、小規模校については学級定員の引き下げを進め、その結果、市部の学校では志願倍率が高いまま推移しています。</p> <p>一方、町村部の小規模校においては、市部の学校への入学希望者の一部が進路変更して入学してくるにより、ほぼ入学者が募集定員を満たしているものの、地元生徒の占める割合が低くなっている学校と、少子化の影響により大幅な定員割れが生じている学校があることとなりました。</p> <p>このため、第2次実施計画では、中学校卒業予定者数が減少する中、それまでと同様の考え方により対応した場合、市部の学校の学級減を一層進めなければならないこととなり、生徒や保護者の進路志望とますますかけ離れる状況となることから、教育の機会均等や全県的なバランスも考慮しつつ、県立高校の適正な学校規模・配置のため、市部の県立高校は引き続き学級減を行うとともに、町村部の学校においても学級減による校舎制の導入や計画的な統合を進めてきました。</p> <p>今後も、平成21年度から平成25年度の中学校卒業予定者数の減少に応じて59学級の減が必要とされる状況の中で、高校における活力ある教育活動を維持するためには一定規模以上の学校であることが望ましいというこれまでの方向性を踏襲しつつ、地域の実情等を考慮した上で、県立高校の統合を含めた適正な学校規模・配置を図るために、広く地区内での高校教育を受ける機会と、生徒の進路選択の幅の確保に配慮しつつ、中学生の志願・入学状況や中学校卒業予定者数の推移を踏まえて、募集停止とする学校を示したところです。</p> <p>本実施計画の策定に当たり、他の学校へ通学が困難であるなど、地区の事情がある場合については、柔軟な学校配置に配慮し、また、普通科等、職業学科、総合学科といった学科の配置割合については、これまでの地域の産業構造の特性等に配慮しつつ、選択幅が確保できるような学校配置を進めることとしています。</p>
	18	<p>三八地区の学級数が他地区に比べて少く、子供の減少が多い東青地区で1校統合なのに比べ、三八地区で2校統合となっているのは不公平である。私立高校が多いことが理由ならば、私立高校の募集定員と県立高校の募集定員を別に考えるようにすれば、県立高校の募集停止・学級減を行わなくてもよい。(外5件)</p>	反映困難	<p>三八地区においては、第2次実施計画期間の中学校卒業予定者数が計画策定時の推計以上に減少した等の理由により、県立高校入学者数の見込に乖離を生じており、本実施計画において早急に対応する必要があることから、実施計画【前期】において10学級の学級減が必要としています。</p> <p>また、本県においては、県立高校と私立高校がそれぞれの特色を生かしながら、高校教育の発展・振興に努めてきたところであり、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」においても、公立高校の配置については区域内の私立高校の配置状況を十分に考慮しなければならない旨が定められていることを踏まえ、本実施計画は、これまでの本県の状況等を勘案した上で策定したところです。</p>
	19	募集停止となる学校の選択理由が、単なる数合せの結果としか受け取れない。	その他	<p>本実施計画においては、学校配置の状況や地域において高校教育を受ける機会の確保に配慮しながら、生徒の志願・入学状況、地区内の今後の生徒数の減少傾向等を総合的に勘案した上で、募集停止とする高校を示したところです。</p>
	20	歴史が浅いほど後援会等の力が弱いことから、歴史の浅い高校を選んで募集停止しているのではないか。(外3件)		
	21	定員割れしている、授業が成り立っていない等の理由がある学校から募集停止を行うべきである。(外3件)	反映困難	<p>ご指摘の、生徒の志願・入学状況とともに、地区内の今後の生徒数の減少傾向や高校教育を受ける機会の確保等、総合的に勘案した上で、募集停止とする高校を示したところです。</p>

募集停止・統合・学級減等	22	あらかじめ統合する両校の学級数を減らしておき、統合した際に1校分の学級数になるように調整すればよい。	反映困難	募集停止となる学校に入学した生徒は、入学した学校で学び卒業することとしています。
	23	単に廃校にするのではなく、きちんと統合する方向で考えて欲しい。	文書修正等	募集停止となる学校の教育活動の充実や指導要録、沿革に係る資料の保存・管理を円滑に行うため、募集停止となる学校と統合先の学校の関係者等で構成される統合準備委員会(仮称)の設置を検討することとし、その旨を記述しました。
	24	少子化が進む中で水準を維持するためには、普通高校においても募集定員の見直し等を検討する必要がある。	記述済み	「具体的な実施計画【前期】」に示したように、普通高校についても募集定員を見直ししています。
	25	工業高校の学級減等による将来の技術系の人材不足は、企業誘致等による産業集積に影響を与えることから行うべきではない。	反映困難	更なる中学校卒業予定者数の減少が見込まれることから、本実施計画においては、工業高校についても、各地区の普通科等、職業学科、総合学科の配置割合について配慮した上で、他の校種と同様に募集定員を引き下げたところです。
	26	更なる少子化が進む中で、小規模校の教育活動の在り方について検討する必要がある。	実施段階検討	施策を実施するにあたり、ご意見の趣旨を踏まえ、検討します。
定時制	27	1学年1学級の三部制(午前・午後・夜間)の定時制課程の総合学科では、それぞれの生徒の進路志望に応じた科目等の選択幅は用意できない。	実施段階検討	既に三部制を実施している、北斗高校及び八戸中央高校の状況を参考としながら開設準備を進め、生徒の進路志望に対応できるよう努めます。
	28	中学校に定時制課程を併設すれば、通学経費等の問題は解決できるのではないか。	その他	ご意見として拝聴しました。
中高一貫教育	29	新たに併設型中高一貫校を作るためには、三本木高校附属中学校の導入の成果について十分に検証を行うべきである。	記述済み	「5 県立高等学校と中学校や大学等との連携」の「(1) 中学校と高等学校の連携」に示したように、県立三本木高校附属中学校における教育効果について、引き続き検証を行うとともに、全県的なバランスを考慮しつつ、併設型中高一貫校を設置することについて検討することとしています。
	30	連携型中高一貫教育の今後の方向性を明確にして欲しい。	実施段階検討	連携型中高一貫教育については、高校・中学校の教員が相互乗り入れすることによる教育内容の充実や、6年間を見通した系統的な教科指導、進路指導において効果があります。その一方では、生徒数の減少や進路志望の多様化により、特定の連携中学校から連携高校へ進学する生徒が年々減少するなど、中高一貫教育のメリットを生かした教育課程の編成や進路指導の充実を図ることが難しい状況にあることから、特定の中学校と高校の間で入学者選抜を行う連携型中高一貫教育については見直しを進めることとしています。

青森戸山高校	<p>31 青森戸山高校の募集停止については反対である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱心に伝統を作り、保護者に門戸を開き、地域の活性化に役立っている。(外2件) ・入試は高倍率である。(外1件) ・近年は国公立大学への進学者数も増えており、県全体の大学等進学率に影響がある。(外1件) ・少人数学級など、規模を落としても存続するべきである。 ・青森高校・青森東高校を7学級で維持しなければ、青森戸山高校を募集停止しなくても地区の少子化に対応できる。 ・進路志望状況の第1次調査で1倍を下回る学校・学科もあるのに、青森戸山高校を募集停止することは二ーズと乖離している。 ・平均的な学力の生徒が進学する学校が減ることで、青森南高校や青森北高校の二ーズが高まり、進学できない生徒が出てくる。 ・青森市内の地域の区分けが実情に合っていない。(外4件) ・駅から徒歩数分、団地も近いという立地条件から、生徒が一番減るとの見込みは現実にそぐわない。 ・成績が良いから優秀な高校へ通うとは限らない。通学に楽な普通高校ならどこでも良いと考える生徒もいるので、地域的にバランスよく学校があることに価値がある。(外1件) ・学級数が減ると部活が減ると説明しているが、生徒は偏差値を基準に受験し、その次に通学について考える。部活動で学校を選ぶ生徒は何人もいない。 	反映困難
--------	--	------

東青地区においては、中学校卒業予定者数の減少に応じて平成21年度から平成25年度までに8学級の減が必要となります。東青地区の郡部には平内高校及び青森北高校今別校舎がありますが、この学級減を、郡部小規模校の募集停止で対応していった場合、郡部の中学生の高校教育を受ける機会を失わせることになることから、郡部の学校の学級減では対応が困難であり、また、中学校卒業予定者数の減は青森市においても大きいことなどから、市部の学校を募集停止とする必要があると考えたところです。

また、青森市内の学校規模・配置について検討した結果、一つとして、生徒の進路選択の幅を可能な限り確保する必要があることから、青森市内にそれぞれ1校のみの専門高校・総合高校である青森工業高校、青森商業高校、青森中央高校については、本実施計画【前期】では募集停止の対象から除きました。

二つとして、青森市内の中学生の過去5年間における進路状況を、東部、中部、西部に区分けした場合、各地区の中学生は同一地区にある高校に進学する生徒の割合が高くなっています。また、青森市内の今後の中学校卒業予定者数の推移を見ますと、東部地区の減少幅が中部地区及び西部地区より大きく、かつ、生徒数も他地区より少ない状況となっています。

三つとして、普通高校で考えたとき、東部地区には青森東高校と青森戸山高校がありますが、青森東高校は県内で三校、東青地区で唯一の普通科全日制単位制の高校であり、生徒の進路選択の幅を可能な限り確保するとともに、この取組を継続していく必要があります。

これらのことを総合的に勘案し、青森戸山高校を募集停止の対象としたところです。

青森市内の区分けについては、中学生の進学先の選択傾向を見るために、参考として青森市中学校指導部会の区分けを準用したところであり、中学校卒業予定者数は、各市町村の報告に基づき推計しています。

選択科目や部活動の設置数については、望ましい学校規模・配置についての検討資料として具体例を示しましたが、それぞれの学校においては、生徒に対し活力ある教育活動を実施できるよう努めているところです。

また、少人数学級や望ましい学校規模以下とすることについては、公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律では、1学級40人を標準として教職員数を算定することになっており、1学級当たりの定員を減らした場合、40人学級の学校と比べ、同じ学級数でも教職員数は少なくなることから、生徒の多様な進路志望に対応した教科・科目の開設が難しくなるなど、課題があるものと考えます。更に、東青地区において、実施計画【後期】期間においては4学級の学級減が必要であると推計したところです。

なお、志願倍率については、中学校卒業予定者数や高校進学率等を踏まえ、段階的に募集停止・学級減をすることとしているため、極端に上昇することはないものと考えます。

青森戸山高校	32	<p>統合の方法等について見直しするべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設準備室が青森高校にあった等の経緯を考えると、青森高校と統合した方がよい。 ・新設校である青森戸山高校と青森南高校を統合し、校舎を新築し、学校名を変えるなどしたほうがよい。 	反映困難	<p>東青地区においては、更に進む中学校卒業予定者数の減少への対応が必要な中で、活力ある教育活動と生徒が切磋琢磨できる教育環境の充実に向けて、地域の実情を考慮した上で、統合を含めた適正な学校規模・配置を進める必要があると考えています。また、広く地区内での高校教育を受ける機会と、生徒の進路選択の幅を確保に配慮しつつ、中学生の志願・入学状況や中学校卒業予定者数の推移を踏まえて、青森戸山高校を募集停止としたところです。</p>
	33	<p>少子化の流れの中で、統合もやむを得ない。</p>	記述済み	<p>「3 県立高等学校の適正な学校規模・配置」に示したように、今後も中学校卒業予定者数の更なる減少が見込まれることから、高校における活力ある教育活動を維持するためには一定規模以上の学校であることが望ましいというこれまでの方向性を踏襲しつつ、地域の様々な実績等を考慮した上で、県立高校の統合を含めた適正な学校規模・配置を進めていくこととしています。</p>
	34	<p>青森東高校と統合しても、授業の進度等が違うのでうまくいかないのではないかと。</p>	文書修正等実施段階検討	<p>募集停止となる学校に入学した生徒は、入学した学校で学び卒業することとしていますので、その旨が分かりやすいように記述しました。</p>
	35	<p>青森東高校と統合しても問題がないように、美術科の授業も連携して行っておくと良い。</p>	文書修正等実施段階検討	<p>美術科については、総合学科の系列の中で扱うなどの方向性について検討を進めます。</p>
	36	<p>平成23年度に募集停止しては、現在実施している「学力向上拠点形成事業」の意図が活かされないのではないかと。</p>	実施段階検討	<p>施策を実施するにあたり、ご意見の趣旨を踏まえ、検討します。</p>
	37	<p>美術科はどうなるのか。総合学科の系列となってしまうのか。(外3件)</p>		
	38	<p>青森戸山高校を中心に、地域住民と一緒によい街づくりのグランドデザインを立てることが、将来に向けた教育改革プランにつながる。</p>	反映困難	<p>本実施計画は、現在小学校や中学校で学んでいる子どもたちにとって、よりよい教育環境を整備したいと考え策定したところです。 なお、第2次実施計画に引き続き、継続して教育環境の改善・充実を図る必要があることを踏まえ、これから高校へ進学する小・中学生、その保護者、教員が計画の内容について十分に理解する期間を確保するとともに、中学校における進路指導のスケジュール等について考慮する必要があると考え公表したところです。</p>
	39	<p>現在の中学1年生で青森戸山高校を希望している子供もいるのだから、三年後の募集停止は時期早急である。</p>		
40	<p>青森戸山高校の統合により、改築した青森東高校に更に増築が必要となるような計画では財政的に無駄である。</p>	その他	<p>募集停止となる学校に入学した生徒は、入学した学校で学び卒業することとしています。</p>	

八戸南高校	41	<p>八戸南高校の募集停止については反対である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試の倍率は高い。(外2件) ・階上町や岩手県からも入学している。(外1件) ・町の清掃や、祭り等への参加により、地域に貢献している。 ・平均的な学力の生徒が進学する八戸南高校が減ることで、進学できない生徒が出てくるのは納得がいかない。 	<p>反映困難</p> <p>三八地区においては、中学校卒業予定者数の減少に応じて平成21年度から平成25年度までに10学級の減が必要となります。この学級減を、郡部の小規模校の募集停止で対応していった場合、郡部の中学生の高校教育を受ける機会を失わせることになることから、郡部の学校の学級減では対応が困難であり、また、中学校卒業予定者数の減少は八戸市においても大きいことなどから、市部・郡部それぞれの学校を募集停止とする必要があると考えたところです。</p> <p>八戸市内の学校規模・配置について検討した結果、一つとして、地理的關係や生徒の進学状況等から中部、東部、西・北部、南郷に区分けした場合、市内では各地区の中学生は同一地区の高校へ進学する割合が高くなっています。二つとして、今後の中学校卒業予定者数の推計を見ると、東部地区における減少数・減少幅が最も大きくなっています。三つとして、中部の高校へは市内全域から通学する傾向があり、西・北部及び南郷地区にはそれぞれ1校しか高校(校舎)がなく、東部地区には普通高校が2校あるが八戸北高校は地区内で唯一の普通科全日制単位制の高校である、という状況です。四つとして、生徒の進路選択の幅を可能な限り確保する必要があることから、八戸市内に1校のみの専門高校である八戸水産高校、八戸工業高校、八戸商業高校、三八地区内で1校のみの名久井農業高校については、実施計画[前期]では募集停止の対象から除くこととします。これらのことを総合的に勘案し、八戸南高校を募集停止の対象としたところです。</p> <p>志願倍率については、中学校卒業予定者数や高校進学率等を踏まえ、段階的に募集停止・学級減をすることとしているため、極端に上昇することはないものと考えます。</p>
	42	<p>当面、八戸市内の高校は5学級規模でよい。</p>	<p>反映困難</p> <p>県立高校においては、生徒の多様な進路志望に対応する教科・科目の開設や多彩な学校行事、様々な部活動等を展開するためには一定規模以上の学校規模が必要であるものと考えます。また、本県は、青森市、弘前市、八戸市の人口規模が他の市町村と比べて大きく、また、近隣の市町村から三市の普通高校へ進学を希望する中学生が多いという特徴があるため、学校規模については三市にある普通高校とそのほかの市町村にある普通高校において、それぞれの視点で考える必要があります。また、普通高校以外の高校については、これまでの志願・入学状況などに対応して学校規模が多様になっています。これらのことを踏まえ、三市の普通高校については1学年6学級以上、そのほかの全ての高校は1学年4学級以上を望ましい学校規模としているところです。</p>
	43	<p>八戸南高校がバスの終点なので、高校が無くなることでバス路線が廃止になると地域の足が無くなる心配がある。(外1件)</p>	<p>その他</p> <p>ご意見として拝聴しました。</p>

南部工業高校	<p>44 南部工業高校の募集停止については反対である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部工業高校のような専門高校は、4～6学級という望ましい学校規模をあてはめて募集停止するのはおかしい。 ・高齢者宅の補修を行う「テクノボランティア」は、高齢者の割合が多い南部町にはなくてはならない大切な活動である。(外1件) ・名川、三戸、田子の共同高等職業訓練校の指導員が奉仕で技術指導を行い、南部工業高校生の支援をしているが、八戸工業高校に統合されると同様の取組はできなくなる。 ・小規模校ならではの、きめ細かな教育を実践している。(外1件) ・約半分の生徒が八戸市から通っているのは、それだけ魅力がある学校だという証である。 ・南部工業高校の卒業生により、伝統の田子大工は支えられているので必要である。 ・社会に踏み出すための教育という点で、工業高校には大きな効果がある。 ・大学へ進学できない子供にとって、専門高校の存在は不可欠である。(外2件) ・三八地区に工業高校が2校あるが、設置している学科が違うので両方必要である。(外3件) ・入試等の倍率だけではなく、社会的貢献度、進学率、就職率という数値を重視して欲しい。(外1件) ・統合する理由に1学年2学級の小規模校だからとあるが、2学級で存続する学校もあり、筋が通っていない。 ・南部工業高校がなくなると、郡部の生徒の交通費、食事代、下宿代等の経費が増える。(外2件) ・八戸駅発の電車は、南部工業高校より八戸工業高校へ向かう電車の方が朝早く出発するので、負担の軽減にはつながらない。 	反映困難
--------	--	------

三八地区においては、中学校卒業予定者数の減少に応じて平成21年度から平成25年度までに10学級の減が必要となります。この学級減を、郡部の小規模校の募集停止で対応していった場合、郡部の中学生の高校教育を受ける機会を失わせることになることから、郡部の学校の学級減では対応が困難であり、また、中学校卒業予定者数の減少は八戸市においても大きいこと等から、市部・郡部それぞれの学校を募集停止とする必要があると考えたところです。

また、三戸郡内の学校規模・配置について検討した結果、一つとして、地理的關係や生徒の進学状況等から三戸町・田子町・南部町を一つの地域と考えることができ、この地域には三戸高校、田子高校、名久井農業高校、南部工業高校がありますが、中学校卒業予定者数は今後も減少を続けます。二つとして、過去5年間における南部工業高校への入学状況を見ると、平均で4割以上の生徒が八戸市内から通学しています。三つとして、三八地区には、八戸工業高校と南部工業高校と、2校の工業高校が配置されています。これらのことを総合的に勘案し、南部工業高校を募集停止の対象としたところです。

三八地区における専門高校の選択幅を確保し、また、南部工業高校のこれまでの実績や地域と連携した様々な取組を、よりよい形で引き継げるよう、建築科及び設備システム科を八戸工業高校に取り込む等、八戸工業高校の学科改編と併せて検討します。

また、全ての県立高校においては、生徒の進路志望に応えるため様々な取り組みを行い、それぞれの成果を上げているところです。そういった事柄を含め、入学してくる生徒や保護者達がどのような学校を望み、志望しているのか、ということの指標として志願・入学状況に着目したところです。

なお、他の学校へ通学することが困難である場合などは、地区の事情による柔軟な学校配置等にも配慮することとしたところです。

南部工業高校	45	南部町の工場誘致及び達者村の事業展開には、南部工業高校と名久井農業高校が必要である。	実施段階検討	施策を実施するにあたり、ご意見の趣旨を踏まえ、検討します。
	46	統合後は、八戸工業高校に建築科と設備システム科が設置されるのか。	実施段階検討	三八地区における生徒の進路選択の幅を確保し、また、南部工業高校のこれまでの実績や地域と連携した様々な取組を、よりよい形で引き継げるよう、八戸工業高校の学科改編と併せて検討します。
	47	農業は、今後いかに工業技術を導入するかが大切。設備システム科が無くなる、あるいは統合で内容が変わることは、食料自給施策に合わない。	実施段階検討	施策を実施するにあたり、ご意見の趣旨を踏まえ、検討します。
	48	名久井農業高校と連携・統合し、新たな専門高校とすることで存続できないか。(外1件)	反映困難	工業高校と農業高校を統合した場合には、専門科目が異なっていることから、限られた教員数の中で専門性を維持していくことが困難であることや、実習施設等の整備など、様々な課題があることから、今後更に検討を進める必要があります。 なお、新しい学科・コース等の設置については、今後の生徒数の減少や地域産業の変化などを踏まえ、慎重に検討することとしています。
	49	岩手県北や三八地区にない、新たな学科を設置することで存続できないか。		
	50	八戸工業高校に統合されることもやむを得ない。	記述済み	「3 県立高等学校の適正な学校規模・配置」に示したように、今後も中学校卒業予定者数の更なる減少が見込まれることから、高校における活力ある教育活動を維持するためには一定規模以上の学校であることが望ましいというこれまでの方向性を踏襲しつつ、地域の様々な実績等を考慮した上で、県立高校の統合を含めた適正な学校規模・配置を進めていくこととしています。
	51	南部工業高校を募集停止するのではなく、三戸高校と田子高校を統合してはどうか。	反映困難	三八地区においては、更に進む中学校卒業予定者数の減少への対応が必要な中で、活力ある教育活動と生徒が切磋琢磨できる教育環境の充実に向けて、地域の実情に配慮しつつ、統合を含めた適正な学校規模・配置を図るために、広く地区内での高校教育を受ける機会と、生徒の進路選択の幅の確保に配慮しつつ、中学生の志願・入学状況や中学校卒業予定者数の推移を踏まえて、南部工業高校を募集停止としたところです。
	52	普通高校志望者が多いから、工業高校の募集定員の比率を減らすのか。	その他	募集停止とする高校については、生徒の進路選択の幅や地域における高校教育を受ける機会を可能な限り確保しながら、生徒の志願・入学状況や、地区内の今後の生徒数の減少傾向等を踏まえ策定したところであり、普通科等、職業学科、総合学科の配置割合について、これまで地域の産業構造の特性や学科設置の経緯などにより、各地区において異なっていることについては十分に配慮したところです。
	53	校舎が新しい南部工業高校を閉校し、校舎が古い八戸工業高校に統合するのは税金の無駄遣いである。	その他	ご意見として拝聴しました。 なお、これまで建築時点に必要な施設を必要な時期に整備してきたものと考えていますが、今後は、統合までの期間において施設・設備を有効活用するとともに、統合後は、「青森県県有施設利活用方針」に基づき、関係機関等と連携しつつ、有効活用が図られるよう取り組みます。

<p>岩木高校</p>	<p>54 岩木高校の学級減については反対である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中学生や、大学進学を目指す高校を希望しない中学生が、数多く入学を希望しており、2学級では少なすぎる。 ・学級減により、生徒に対する教育が不十分になり、さらに、教職員の多忙化が懸念される。 ・1学年2学級の学校では、魅力ある、夢を育む学校作りはできない。 	<p>反映困難</p>	<p>中南地区においては、更に進む中学校卒業予定者数の減少への対応が必要な中で、活力ある教育活動と生徒が切磋琢磨できる教育環境の充実に向けて、地域の実情を考慮した上で、統合を含めた適正な学校規模・配置を進める必要があるものと考えます。また、広く地区内での高校教育を受ける機会と、生徒の進路選択の幅を確保に配慮しつつ、中学生の志願・入学状況や中学校卒業予定者数の推移を踏まえて、岩木高校を学級減としたところです。</p>
<p>八戸高校</p>	<p>55 八戸高校の学級減については反対である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸東高校の学級数を増やすよりも、八戸高校の学級減を行わず現状維持の方が合理的である。(外2件) ・青森市、弘前市、八戸市の人数の減少傾向を比べても、八戸高校のみ学級減を行うことは疑問である。(外2件) ・先に八戸水産高校の学級数を減らすべきである。 ・八戸高校を減ずることは、県の医師不足対策に相反する。 	<p>反映困難</p>	<p>三八地区においては、更に進む中学校卒業予定者数の減少への対応が必要な中で、活力ある教育活動と生徒が切磋琢磨できる教育環境の充実に向けて、地域の実情を考慮した上で、統合を含めた適正な学校規模・配置を進める必要があるものと考えます。また、広く地区内での高校教育を受ける機会と、生徒の進路選択の幅を確保に配慮しつつ、中学生の志願・入学状況や中学校卒業予定者数の推移を踏まえて、八戸高校を学級減としたところです。</p> <p>なお、八戸東高校の1学級増については、中学校卒業予定者数の推移に合わせて望ましい学校規模とするためであり、生徒の多様な進路志望に対応する教科・科目の解説や多彩な学校行事、様々な部活動の展開が可能となるものと考えます。</p> <p>また、八戸水産高校については、県内唯一の水産高校であり、生徒の選択の幅の確保という観点から、具体的な実施計画【前期】において学級減は行わないこととしたところです。</p>

弘前工業高校	56	弘前工業高校の学級減については反対である。 <ul style="list-style-type: none"> ・入試の倍率は高い。(外7件) ・伝統と実績があり、地域(青森県)に多大な貢献をしてきた高校の学科をいきなり減ずるべきではない。 ・工業高校の学級減等による将来の技術系の人材不足は、企業誘致等による産業集積に影響を与える。(外7件) ・弘前実業高校の減がないのに、弘前工業高校だけ学級減・学科再編となることには納得できない。(外7件) 	反映困難	<p>中南地区においては、更に進む中学校卒業予定者数の減少への対応が必要な中で、活力ある教育活動と生徒が切磋琢磨できる教育環境の充実に向けて、地域の実情を考慮した上で、統合を含めた適正な学校規模・配置を進める必要があるものと考えます。また、広く地区内での高校教育を受ける機会と、生徒の進路選択の幅を確保に配慮しつつ、中学生の志願・入学状況や中学校卒業予定者数の推移を踏まえて、弘前工業高校を学級減としたところです。</p> <p>また、産業構造等の変化に伴い、生徒の幅広い進路選択を可能にするため、これまで以上に基礎・基本を重視した教育の充実が求められていることから、専門化・細分化してきた学科について再編整備を進める必要があるものと考えます。</p>
	57	学科が細分化する以前の体制に戻すという方向性は、本実施計画に記載されている「将来のスペシャリストの育成」に矛盾する。	文書修正等	「将来のスペシャリスト」とは、「高校卒業以後も学習を続けることで将来的にスペシャリストを目指す者」を指すものとして用いていましたが、分かりにくい表現であるため、「人材」に記述を修正しました。
	58	普通高校志望者の増加に対応し、工業高校等の募集定員を減らし、普通高校への進学者数を増やすのか。	その他	学級減とする高校については、生徒の進路選択の幅や地域における高校教育を受ける機会を可能な限り確保しながら、生徒の志願・入学状況や、地区内の今後の生徒数の減少傾向等を踏まえ示したものであり、普通科等、職業学科、総合学科の配置割合について、これまで地域の産業構造の特性や学科設置の経緯などにより、各地区において異なっていることについては十分に配慮したところです。
尾上総合高校 (定時制)	59	尾上総合高校を三部制の定時制課程とすることについては反対である。 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の通学には不便で危険である。(外6件) ・弘前市内から通学するには、交通費の負担がかかる。(外5件) ・近辺に働く場所がないので、通学が不便である。(外5件) 	反映困難	<p>中南地区においては、今後も中学校卒業予定者数が減少することから、定時制課程の生徒も減少していくものと見込まれます。また、定時制課程においても、様々な価値観を持った一定の集団において、よりよい高校教育を受けることができる環境が必要であるものと考え、弘前中央高校定時制課程及び黒石高校定時制課程の志願・入学状況等を踏まえ、東青地区の北斗高校、三八地区の八戸中央高校に続き、尾上総合高校に三部制を導入することとしています。</p> <p>尾上総合高校に夜間部を設置した場合、弘前中央高校定時制課程及び黒石高校定時制課程における現在の時間割と同様の時間帯であれば、弘前方面及び黒石方面からの公共交通機関による通学は可能であるものと考えます。</p> <p>また、定時制課程に三部制を導入することで、多様な学習・就業形態の選択幅の確保や学習時間の選択も可能になり、就業時間等に応じて午前・午後・夜間を選択し、更に部の枠を超えて教科・科目を選択できることから、職場が高校の近辺ではなくても通学は可能であるものと考えます。</p> <p>なお、募集停止となる学校に入学した生徒は、入学した学校で学び卒業することとしていることから、入学後に交通費が増加することはないものと考えます。</p>
弘前中央高校 (定時制)	60	最近の入試の倍率は高いはずであり、存続を切望する。(外5件)	反映困難	<p>中南地区においては、今後も中学校卒業予定者数が減少することから、定時制課程の生徒も減少していくものと見込まれます。また、定時制課程においても、様々な価値観を持った一定の集団において、よりよい高校教育を受けることができる環境が必要であるものと考え、弘前中央高校定時制課程及び黒石高校定時制課程の志願・入学状況等を踏まえ、東青地区の北斗高校、三八地区の八戸中央高校に続き、尾上総合高校に三部制を導入することとしています。</p>

体系外への意見	説明会・広報	61	広く意見を求めているとのことだが、周知が不十分である。(外2件)	その他	ご意見として拝聴しました。 今後の参考とさせていただきます。
		62	募集停止等の該当する高校がある地区で説明会を行うべき。(外1件)		
		63	説明会を開催すれば、説明を終えたと思うのではなく、学校を通じ多くの保護者へ周知を図るなど、幅広く意見をいただくべき。		
		64	質問に満足に答えていなかった。		
		65	広報誌が色弱の人には見にくい色使いであった。		
体系外への意見	ランドデザイン会議	66	誰が参加して、どんな話し合いで決められた内容なのか。	その他	<p>高等学校ランドデザイン会議は、県教育長の諮問により、平成21年度以降における今後の県立高等学校の在り方について、平成18年5月から1年6ヶ月にわたり審議したところです。同会議は、全体を統括する検討会議のもと、2つの専門委員会及び3つの地区部会で構成され、学校関係者のほか、14名の小・中・高校のPTA関係者及び15名の地域の経済界関係者など、延べ75名の委員により議論を重ね、特に地区部会では、それぞれの地域の特色に応じた意見も出されました。</p> <p>平成19年4月には、審議状況を「中間まとめ」として公表し、県民の皆様からご意見を伺う機会を設けた上で、平成19年10月に答申をいただいたところです。</p>
		67	委員の殆どが教育関係者であり、一般の保護者の民意が反映されたものと受け止めることは難しい。		
		68	なぜ、年度毎に中間報告ができなかったのか。		
その他	その他	69	高校を統合し、教室や学校そのものが空いたところに、特別支援学校、あるいは分校などを設置できないか。(外4件)	その他	ご意見として拝聴しました。 なお、今後は、統合までの期間において施設・設備を有効活用するとともに、統合後は、「青森県県有施設利活用方針」に基づき、関係機関等と連携しつつ、有効活用が図られるよう取り組みます。
		70	税金で私立高校へ助成されていると聞いたが、その金額はどれくらいなのか。	その他	私立学校経常費補助のうち高校に係るものは、平成20年度の県の当初予算では3,116,700,000円となっています。